

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4270103932
法人名	株式会社 ヒューマン・ネットワーク
事業所名	介護支援センターながさき グループホーム桜木
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市桜木町3番25号 (電 話) 095-818-5500

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年1月22日	評価確定日	平成20年6月2日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	19人, 非常勤 5人, 常勤換算 16.9人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100, 000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	100 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低 66 歳	最高 91 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小森内科クリニック、浦クリニック、ちくば歯科医院、田上病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

会長が地域の方の「この辺りに住みたい」という思いを受け平成15年に開設され、1階がディサービス、2・3階がグループホームで、地形的に建物周囲は坂道の多い場所ではあるが、町の中心地に近く民家も多く地域との交流には恵まれている。町内の夏祭りで職員が寸劇をしたり、地域掃除に入居者と一緒に来る範囲で参加する等、地域との関わりを積極的に行っている。自治会会長より「ホームが中心になって、地域の独居老人が気軽に立ち寄れる場所となり活気づけて欲しい」と、ご要望があり行事開催に向け前向きに検討している。介護の基本としての目配り・気配り・心配りに努め、職員は理念である“愛と信頼そして幸せ”を常に意識しながら、ご意見に耳を傾け明るい笑顔で支え合い、喜怒哀楽を共に入居者と生活している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	居住空間に季節感を持たせ一人で過せるよう廊下にテーブル・椅子を置いたり、申し送りは声の大きさに配慮し、個人記録は第三者の目に触れないよう棚に目隠しをし情報の漏洩防止に努めている。玄関は外からは自由に入って来れ外に出る時は直ぐに解錠が出来るよう操作の容易な鍵に変えている。家族の要望で玄関は施錠されているが今も検討を続けている。定期的に避難訓練を実施し地域に災害時の協力依頼を行っており、協力について自治会で検討している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長や管理者が評価の意義を説明し、各職員が自己評価表記入の際に解らない事を、その都度話したり説明する中で取り組みたい事やケアの振り返りにつながっている。前回評価結果に基づき各ユニット毎に一部職員が参加し改善策の検討と自分達のケアを照らし合わせながら、今後も更に取り組みを続けていきたい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	「公民館を活用して欲しい」というご要望で公民館で開催しており、出席する入居者が決まってしまう傾向にあるが、事前に葉書でのお知らせや来訪時に出席をお願いしたり、電話での出席確認を行い定期開催している。介護保険について等のご質問に包括の方にお話し頂いたり、ホームの活動状況や事故報告、対応について一緒に話し合っている。福祉用具等の相談もあり、法人の関連部署から自治会に説明にお伺いしている。家族のご希望が揺れ動き対応や関わりが困難な事例について市や地域包括に相談し、助言を頂きながら今も取り組みを続けている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に便りや担当職員がメッセージカードをお送りし、来訪時は家族が特に気にされている事を心掛けた報告をしている。ご意見箱や苦情処理委員会を設置し苦情処理の対応手順を掲示したり、来訪時に「何かご意見はありませんか」と繰り返しお尋ねしたり、入居時に行政や第三者委員の相談窓口の説明を行い繰り返し説明している。年に1~2回家族と施設長・管理者・主任でホーム会議を行い、食事を一緒に楽しみながら意見交換をし、頂いたご意見は申し送りノートに記録して伝達し、必要に応じ職員と話し合って対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	おくんち、花火大会の見学や町内の夏祭りで職員が寸劇をしたり、同建物内の他事業所に踊りの先生や幼稚園の慰問がある時に、入居者も見学に行き顔見知りの方とお話する機会が持てている。回覧板が回ってきたり自治会の集まりに職員や、体調次第では入居者も参加したり、地域掃除の日に建物周囲の草取りやごみ拾い等、出来る範囲で行っている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	H.15年の開設時に会長が“愛と信頼そして幸せ”「住み慣れたところでそこに住む人々と共にいきいきとした生活を送る為に…」を理念として掲げた。愛・信頼・幸せの言葉の中には介護の基本として目配り・気配り・心配りに努め、地域と共に協力し思いやりのある関係作り、心豊かなゆとりとぬくもりのある人間関係(ヒューマン・ネットワーク)と、思いを込め『地域で暮らす』という視点が盛り込まれた事業所独自の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念を入口に掲示し毎月の営業会議・全体会議で、会長からは会社の方針等や理念について、施設長からは理念を含めて良いサービスを提供するには“愛”が必要、地域で楽しく過ごせる事を援助する為には等と、常に理念について話をしている。管理者間の申し送りや日々の申し送りの際に、気になる行動はお互いに注意を合ったり、気づいた事を理念に照らし合わせ話しているが、技術面の指導が多く理念に込められた思いは職員間で温度差がある。	○	理念に含まれた会長の思いを浸透させていきたいと、管理者は考えておりホーム内の会議でも、理念に照らし合わせて話す機会を持ち、日々の実践の中で理念が活かされるよう、今後の取り組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	おくんち、花火大会の見学や町内の夏祭りで職員が寸劇をしたり、同建物内の他事業所に踊りの先生や幼稚園の慰問がある時に、入居者も見学に行き顔見知りの方とお話する機会が持てている。回覧板が回ってきたり自治会の集まりに職員や、体調次第では入居者も参加したり、地域掃除の日に建物周囲の草取りやごみ拾い等、出来る範囲で行っている。	○	地域が高齢化しているのでホームが中心となって、地域を活性化させて欲しいと自治会長から要望があり、小さな子供も含めて地域住民の方をお呼びして夏祭りを開催する等、実現に向けて取り組んでいきたいと考えている。ホーム独自の活動や系列の他業所との交流・活動や、地域活動にも積極的に参加したいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長や管理者が前回評価を基に評価の意義を説明し、職員に自己評価表を配布し話し合いながら記入する中で、取り組みたい事やケアの振り返りにつながった。項目毎の説明はしなかったが記入の際に、解らない事をその都度話したり説明し、皆で悩みながら計画作成担当者がまとめていった。前回評価結果に基づき各ユニット毎に一部職員が参加し、改善策について検討し項目に自分達のケアを照らし合わせながら、今後も更に取り組みを続けていきたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会より「公民館を活用して欲しい」と、ご要望があり公民館で開催しており出席する入居者が決まってしまう傾向にある。会議開催日を決めているが1週間前に葉書でお知らせしたり、家族来訪時に出席をお願いし電話で出席確認している。ケアハウス、介護保険の申請、グループホームについて等の質問があり包括の方にお話し頂いたり、ホームの活動状況や事故報告・対応等について一緒に話し合っている。福祉用具・物品購入に関する相談等もあり、法人の関連部署から自治会に説明にお伺いしている。	○	外部で開催される為ホームの様子も見え難い状況にあり、ホームでの開催等も検討され入居者の生活を見て頂く事で、ホームをより深く理解して頂けると考えられる。会議記録は議事録として発言者名とその内容、回答者名とその内容等が具体的に事、ご意見やその後の展開等の取り組み状況が明確になり、出席できなかった家族にも解り易く伝わると考えられる。今後の更なる取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	申請時や事故報告等で市窓口にお伺いしたり、系列の他事業所と連携を取りながら、支援センターへ事業所の情報提供を行ったり、電話で行事の連絡等を定期的に行っている。治療の為に内服開始や予防的ケアについて等も家族のご希望が揺れ動き、ホームとしての対応や関わりが困難な事例について、市や地域包括に相談し助言を頂いたり、来訪時にはゆっくりとお話をお聴きする時間を持つ等、今も取り組みを続けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活状況や健康状態は定期的にホーム便りや、担当職員がメッセージカードをお送りしたり、体調変化がある時は電話報告し来訪時に管理者・主任は、家族が特に気にされている事を心掛けて報告したり、職員も暮らしぶり等お話ししている。法人事務が月に2回出納帳を締め管理者がチェックして、毎月郵送で金銭管理の報告を行っている。管理者の異動は全家族に報告しているが、職員については担当者の家族を中心にに行い必要に応じ他の家族へ報告している。	○	居室担当者を含め定期的に家族との面談の機会を設け、入居者のケアと一緒に考えていきたいと管理者は考えている。職員の異動について来訪される間隔が長い家族には紹介迄に至っていない現状であり、ホーム便り等へ新入職員の写真掲載を行ったり、家族への定期的な報告につながるよう取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や苦情処理委員会を設置し苦情処理の対応手順を掲示したり、来訪時に「何かご意見はありませんか」と繰り返しお尋ねしている。入居時に行政や第三者委員の相談窓口の説明を行い、その後も繰り返し説明している。年に1～2回家族と施設長・管理者・主任でホーム会議を行い、食事を一緒に楽しみながら意見交換をし、頂いたご意見は申し送りノートに記録して伝達し、必要に応じ職員と話し合っ対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	多くの経験を積み重ね成長していけるよう、定期的ではないが入所系・在宅系サービス間や、人員体制・能力に応じた適材適所への異動はあるが、入居者や家族の不安に配慮し最小限に行なっている。夜勤専門の職員や基準以上の人員配置を行っており、休みの希望にも極力応じたり飲み会等の職員親睦の場を設けている。職員交代時は入居者にダメージを与えないよう2週間～1ヶ月前後、職員が新任職員に対し情報提供や指導を十分に行っている。	○	職員の入れ代わりによって、入居者・家族が受ける精神的ダメージの大きさを受け止め、馴染みの関係が継続していけるような、生活環境を維持していきたいと管理者は考えており、今後の取り組みに期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の他事業所と合同で毎月内部研修を行ったり、認知症介護実践者研修や管理者研修、ストレスケアや協議会主催の研修等に職員・希望者が休みを利用して出席し、後日ホーム内で口頭で伝達したり資料を回覧・配布し情報を共有している。職員毎の研修計画は作成していないが、スキルアップの構想は施設長の考えの中にはあり、個人の能力や特性等も考慮して話している。	○	各職員の経験・習熟度等に応じた資格取得等について、組織の中での取り組みを検討しており、職員の希望等も考慮した上で、スキルアップの為に支援方法等を、職員と話し合い具体的な育成計画の取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に施設長・管理者が参加し、協議会の中で各委員会が設置され各ホームの役割を決め、交代で講師を務めながら勉強会を行っている。入居者と一緒に他ホームの夏祭りに行ったり、職員間で相互訪問を繰り返しながら、新たな気づきがあったり、良いと思った部分は直ぐに取り入れ日々のケアに役立ており、職員や入居者の交流やサービスの質向上の機会となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者・ケアマネジャー・主任が、自宅や入院先に情報収集にお伺いしたり、他サービス利用時はその時の様子を見に行ったり、本人・家族が見学に来られる事もある。必要に応じ体験入居や、見学だけではなく滞在時間を徐々に伸ばし、自然な形で馴染めるように関わり顔馴染みの関係を作れるようにしている。入居後2週間位は頻回に面会に来て頂くようにしたり、本人が希望される時には直ぐに電話をして、家族の声を聞いて安心できるようにお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	排泄介助時に「ありがとう」と入居者が笑顔で言われ、ホッとする瞬間や“仕事を続けて良かった、これからも頑張っていける”と、元気づけられている。洗濯物たたみの時に取れなかったボタンをつけたり、ほつれを繕ったり、料理方法や味付けを教えて貰っている。自分のお菓子を職員に半分残されたり、歩行困難な入居者が布団を抱えて来て、夜勤職員に「早く寝ろ」と言われホールに布団を敷き、一緒に休んだり一緒に学び支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族から生活習慣等をお聞きしたり、行動や表情から思いを汲み取ったり、ケアの中で気付いた事や出来そうな事を提供し、その時の様子を観察しながら、ご希望や意向の把握に努めている。明確に意思を伝えられない入居者についても、今の気持ちを把握出来るよう観察を続けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の思いを把握し家族の意見も予め尋ね、計画に反映させているが、入居者の生活習慣等を踏まえ『その人らしく暮らし続ける』為の、個別・具体的な課題・目標が介護者の視点になっていたり、ケアの場面では『地域で暮らす』視点で取り組まれているが、目標に挙げられていない方もいる。行動障害を表す言葉が含まれている方や、現在行われているケアが全て計画に記載されていない方がいる。職員の気付きや意見を聞く場はあるが、意見が出ない事もあり計画へ反映されている部分は少ない。	○	『地域でその人らしく暮らし続ける』という視点で、全入居者に個別・具体的な課題や目標の設定が望まれる。職員のケアの方法・留意点を統一する為にも、現在行っているケアの内容をすべて計画の中に盛り込む事で、生活状況を思い描きやすく『入居者自身の計画』となり、家族もご意見等が言い易い状況が作り出せると考えられる。今後の取り組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回定期的に見直しを行っており、状態等に変化があった時も計画変更の必要性について、話し合いは行っているが、計画の変更作成には至っていない。毎月、家族のご要望等をお尋ねし、全入居者の計画の検討を月に1回は職員で行っている。	○	状態等に変化が生じた場合は介護計画の見直しを行い、現状に即した柔軟な計画の変更をしていこうと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム内の看護職員や法人内の看護師と、いつでも連絡が取れる状態になっており、協力医療機関との契約で24時間いつでも連絡・相談できる体制で、緊急時の対応もして頂けるようになっている。結婚式や法事の送迎や付き添いで参加したり、希望に応じてお葬式や墓参り等の外出支援を行っている。外泊時の日程調整や準備等のお手伝いや受診介助、お菓子や洋服の買い物や美容室に行く等、希望に応じて対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望をお聞きしかかりつけ医で受療されているが、緊急時に主治医と連絡が取り難い時は、協力医療機関で診て頂く事等を説明し同意と納得を頂いている。職員が通院介助をし変化がある時は速やかに家族に報告し、特に変化がない時は来訪時に報告している。家族が通院介助された時に結果をお聞きしているが、治療方針等を直接医師にお聞きしている状況もある。確実な内服の為に薬を職員に預けて頂く必要性について、医師より家族に説明して頂いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを行っていく方針はあり、入居者・家族の意向はおおむね把握できているが、家族から「どこまで見て頂きますか」と聞かれる事があり、医師から入院治療の指示がない限りは、ケアが可能である事をお伝えしている。どのような状態迄事業所で対応できるのか家族や職員と話し合ったり、重度化によって再度の話し合いが必要な状況は未だ生じていないが、健康状態について等は繰り返し話し合い、他の事業所や施設に変わって頂く事も視野に入れた対応を行っている。	○	協力医療機関と24時間いつでも連絡が出来る体制はあるが、設備等の解決し難い問題もあり、良いケアを実施し継続していく為に必要な事や、法人・職員・家族等の協力も含め、事業所で対応できる範囲を明確にし情報を共有する等、今後の取り組みに期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の自尊心等に配慮しさりげなく介助し、小声で「トイレに行きませんか」等と誘導している。苗字で呼び掛ける事を基本にし生活背景等から、時に「先生」や「〇さん」と名前になる事を家族等に事前に了承を頂いている。申し送りは入居者が側に居る事もあり居室番号を使い声の大きさに配慮している。構造上の問題もありフロア内で記録物を保管する為、カーテンで目隠し個人情報を書かれた書類はシュレッダーにかけ、個人情報の漏洩防止に努めている。	○	排泄時の声かけを「トイレ」という直接的な言葉ではなく、本人の思いを汲み取り自尊心・羞恥心に配慮し、意識的な声かけを心掛けさりげなく行う等、更なる取り組みに期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課についても無理強いせず暫くして再び声をかけたり、思いを大事にし仏壇に供える花を買いに行ったり、他事業所に来ている友人に会いに行き来したり、将棋の相手や買い物時の留守番、花壇の水やりや家族の要望も含めお昼寝をして頂いたりしている。家事をしている時も様子を見ながら「ありがとうございました」と、お礼を言っ本人のペースを尊重している。希望等を出されない方も関わりを続け常に職員の傍に居て頂き、笑顔で過ごして頂いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の栄養士が献立作成されており、魚が続く時や個別でジュース・納豆・パンが食べたい時等、一緒に買いに行きメニューを変更している。味見や食器の配膳・下膳、食器洗いや片付け、テーブル拭き等を其々の持てる力に応じて参加して頂いている。疾病等による食事制限等は盛り付けの工夫や栄養士と相談したり、旬の食材や菜園で採れるナス・ミニトマト・ピーマンや花見弁当を持って外で食べたり、お節料理を取ったり希望者と一緒に外食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回程度と決めているが毎日沸かしているため、排泄の汚染時はシャワーで対応する事もあるが、希望や必要時はいつでも入れる状態になっている。体調に無理のない範囲で入っている時間や湯温も好みに合わせており、気持ち良く入って頂く為に「今日はどうですか」や、1人ずつゆっくり入って頂いたり、季節に応じて菖蒲湯や入浴剤を使用し楽しんで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝のお参り・仏壇の水替えや廊下掃除、ボタン付けや繕いもの、新聞紙のゴミ袋折りや野菜の収穫、塗り絵や将棋を楽しんで頂いたり、誕生日のケーキ作り、楽しみで葉書を書かれリハビリを兼ねて夕方投函に行ったり、本人・家族から情報収集し生活暦等を活かせるようにしている。家族にお聞きしながら関わっているが、一日の中でも喜怒哀楽の変化が激しく、行っている事が楽しみ事であるのかどうかとも掴みきれない状況もあり、今後も諦めずに取り組みを続けていく。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	コンビニへ買い物やドライブ・公園の散歩、洋服やお菓子を買いに行く等ご希望をお聞きしながらできる限り対応している。事務所の郵便物を一緒に投函に行ったり、お盆の墓参りや法事の時に自宅への送迎や、一緒に出掛けたりしている。洗濯物を屋上に干しに行ったり、車椅子の方も籠を膝に載せて運んで頂く等、戸外で過ごす頂く機会を積極的に作っている。職員とバッチョングセンターやボウリング場等のスポーツセンターに行き楽しむ事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット毎の出入り口は音による行動制限に配慮しながら、鈴をつけ自由な出入りが可能な状態であるが、玄関は入って来る事は出来ても外に出る為には解錠操作が必要で、エレベーターが1階に着くと呼び鈴が鳴り要望に応じて直ぐに対応する為に、職員が簡単に開けられるような鍵へ変更している。以前に入居者が1人で外出された事があり、家族の要望で玄関は今も施錠しているが、希望時に出来る限り同行し散歩を行うようにしている。	○	鍵をかけない暮らしが大切と考えており、家族等の要望に配慮しながら施錠しない為に必要な事や時間等を、入居者の安全性を守る事と共に検討を始めよう、という思いに至っており今後の取り組みに期待していきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者や一部職員で消防署や消防設備保守点検会社の協力を頂きながら年2回、夜間の災害発生・火災を想定し避難訓練を実施している。電話や口頭で訓練の呼び掛けは行っているが、地域の方の参加には至っておらず、地域に災害時の協力依頼を行っているが、どのような協力出来るのか自治会で検討している状況である。災害に備えた備品として各ユニットで乾麺・缶詰類・飲料水を準備しガスコンロやオムツ等も備えている。	○	地域や家族の協力を頂きながら実践的な訓練を行う事で、災害時の混乱状況への対応が可能になると考えられる。自治会として協力して頂ける事等を、運営推進会議で検討したいと管理者は考えており、地域の方や家族の訓練への参加等、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が作成した献立を元に調理し、入居者の好みに合わせ食材の変更や調理法を変えたり、飲み物の種類を選べるようになっており、食事量・水分量を把握に必要な方については必要な水分量が摂取できているかを確認している。体重測定を月2回行い医師に献立を見て頂いたり、血液検査結果に基づき指示・助言を頂き、栄養士に報告・相談し個別のメニューに変更する等の対応を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファ・テーブル、テレビ、本、季節の花を飾り調理の音や匂い等、自然に食事時が知らされ家庭的な感じである。廊下にテーブル・椅子や本が置かれ1人で過ごす空間が準備されているが、他ユニットは入居者の状況等により安全面に配慮され、今は設置されていない。入居者の表札は目線に合うように下につける工夫や、全体的に窓が多く明るく落ち着いた共有空間で、各居室やトイレは換気扇や消臭剤を設置し定期的な換気を行い、空気の澁みや不快な臭いがないよう配慮され、居心地良い生活空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや換気扇・エアコンは備え付けてあるが、それ以外は家族に相談して使い慣れた卓袱台・冷蔵庫・テレビ・ソファや、仏壇等を持って来て頂き、希望があればカーテンも防炎の物を取り付けて頂いている。季節の花が飾られたり寛げるような配慮や、家族写真の子供の年齢が変化する事で、混乱された方がおられ状況に合わせて、同じ年代の写真を貼ってからは落ち着いた生活をされており、入居者其々に過ごしやすい居室になっている。		